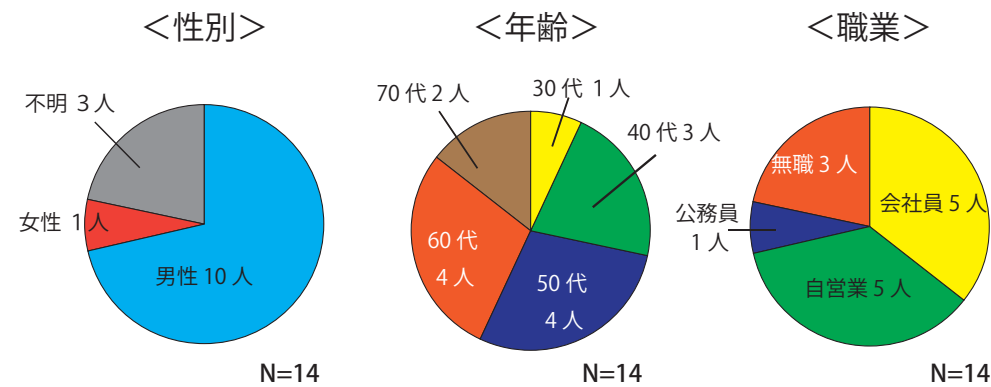


WSの まとめ

A班では、ハード面とソフト面を分けて提案したほうが良いのではないかという意見ができました。また、事業や取り組みをより円滑に進める上で、意見交換や情報共有などの協働体制が不可欠であり、市駅エリアマネジメントが重要であるという意見がありました。B班では、水辺利用に関して、まちと水辺が綺麗になるともっとできることが増えるので、清掃活動が市民のまちづくり参加のきっかけとなるのではないかという意見ができました。C班では、観光を軸として盛り上げていくことを中心として話を進めていきました。それに伴い市堀川でのクルーズやまちなか循環バスなどの交通網について、具体的な意見が多く挙がりました。D班では、イベント等の取り組みは短期的に着手し、ハード整備などは時間をかけて検討を進め、2050年までにすべてのプロジェクトを実現しようと話し合いが進められました。そのためにも、まずは取り組みの基盤となるエリアマネジメント組織を固めることが重要であると指摘されました。

参加者の構成

今回のワークショップの参加者は計26人でした。終了後、そのうち大学関係者を除く14人の方々にアンケートに答えていただくことができました。



参加者の声

当日のアンケートに記入していただいたコメントの一部をご紹介します。

ぜひワークショップ以外に定期的に会議が行われることを希望します。(40代・男性)

エリアマネジメントがしっかりできれば、いろんな事業が前に進めることができると思います。(30代・男性)

メンバーの世代交代を見据えた活動が必要だと思います。(50代・男性)

人口減は必ずしも悪いことばかりではないと考えることが必要。市駅周辺にはたくさんの宝があります。(70代)

一致団結して協力し合えばもっと活性化するとします。(50代・男性)

全体の今後の市駅の方向性が見えてきてることが嬉しかったです。(40代)

市駅ビルの完成イメージ図が発表されました！



▲南海電鉄 2017年3月10日プレスリリース記事より
※あくまで現時点でのイメージ図です。
3月10日、南海電鉄より新たな「南海和歌山市駅ビル」の完成イメージ図が発表されました。南海電鉄と和歌山市による市街地再開発事業はよいよ本格化し、今年3月には第1期計画のオフィス棟が竣工しました。4月から現市駅ビルの解体工事が着手され、2020年3月に建物全体が竣工する予定です。

お知らせ 今後の取り組みについて

2014年11月から実施してきた「市駅まちづくりワークショップ」は、地域主体のまちづくりプランの作成を目標として進めてきました。第10回では、これまでの総括として「市駅まちづくり実現構想」(暫定版)を提示し、意見交換を行いました。ワークショップはここで一区切りとし、今後は社会実験などの具体的なアクションを進めるための議論・検討の場を、別の形で設けていく予定ですので、今後もお参加ください。

編集後記 今回から新3回生がまちづくり通信の編集を担当します。WSとまちづくり通信、どちらも先輩方からしっかりと引き継ぎ、今後も市駅前のまちづくりがより充実するよう、お手伝いできればと思います。今年も地域一丸となって取り組みを進めていきましょう！
永瀬研究室3回生 中野 美里

市駅まちづくり通信 11

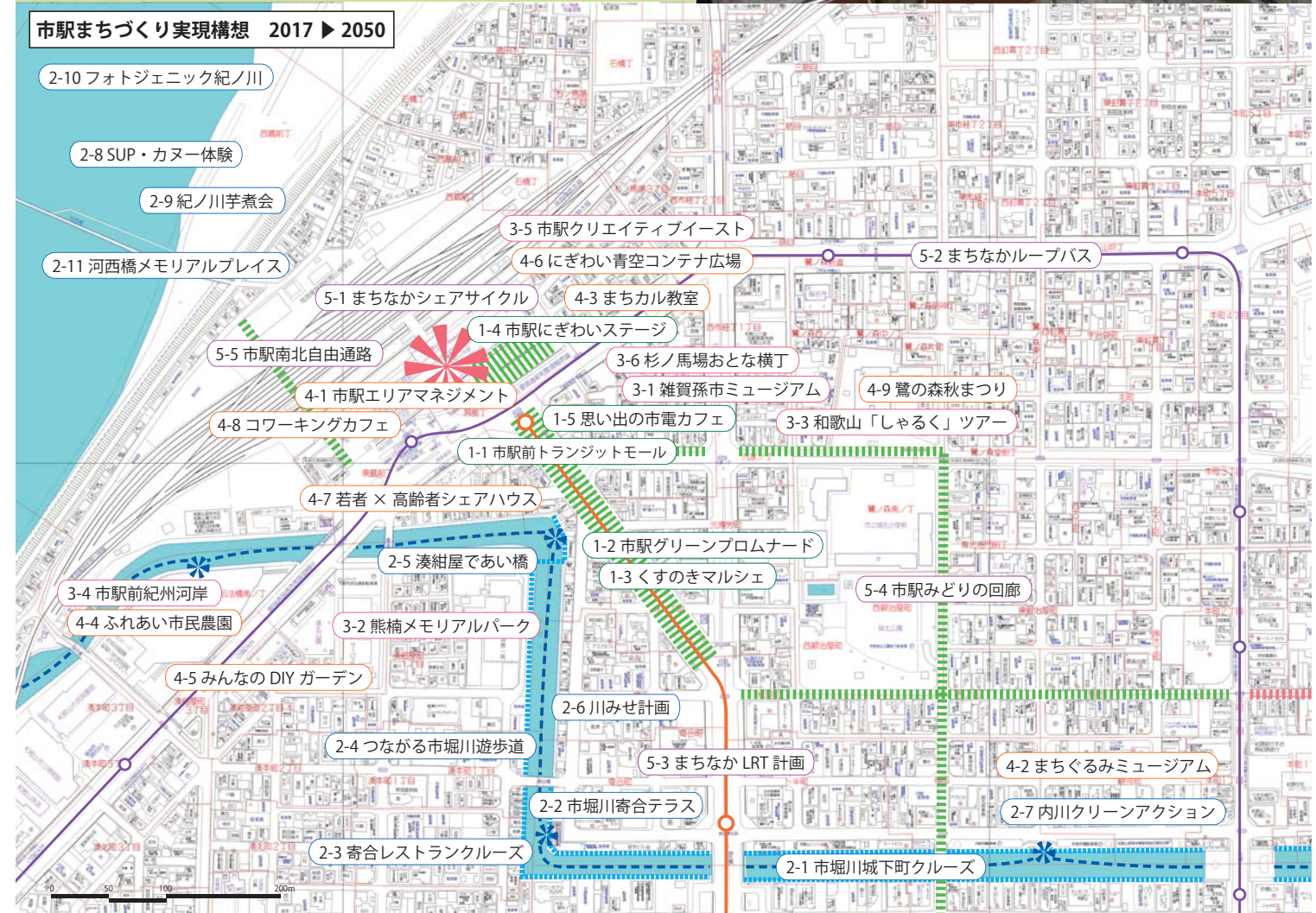
市駅まちづくり実現構想の提案

第11号 2017.04.26 発行：市駅まちづくり実行会議 編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室

3月17日に第10回市駅まちづくりワークショップが開催されました。久々の開催となった今回は、これまでのワークショップや社会実験を踏まえて作成した、約30年後の市駅前の将来に向けた36のプロジェクト「市駅まちづくり実現構想 2017 ▶ 2050」の提案をもとに、実現すべきまちの将来像と、そのための具体的なまちづくりのシナリオについて、4つの班に分かれて議論しました。

第10回WS 「市駅まちづくり実現構想」提案の内容について具体的な議論を展開

前半では、永瀬ゼミがこれまでの議論を踏まえて作成した「市駅まちづくり実現構想 2017 ▶ 2050」の概要と、36のプロジェクトの提案内容について説明がありました。後半では4班に分かれ、各プロジェクトの内容を記したカードと、実施エリアとなる市駅周辺の地図を用いて、約30年後までのタイムラインを設定しながら、まちの将来像をどのように設定するか、各プロジェクトを用いてどのようなまちづくりの「シナリオ」が描けるかを、グループ毎に議論しました。



市駅まちづくり実現構想 2017 ▶ 2050

市駅まちづくり実行会議
2017年3月17日 暫定版

◆持続的なまちづくりに向けた5つの基本方針

- 1. シンボル軸を活かす** : 市駅前通りを和歌山市の顔として育てる。
- 2. 水辺を活かす** : 紀の川や内川に抱かれた「水の都わかやま」を再生する。
- 3. エリアの特色をつくる** : 市駅周辺の魅力を高めるコンテンツを増やす。
- 4. コミュニティを育てる** : 多世代の市民、来訪者、関係主体の交流を促す。
- 5. 周辺地域とつながる** : 交通を再編し、まちなかや市内外の地域とつなげる。

和歌山市駅周辺の歴史性・立地条件・空間資源や、これまでの地域の取り組みを活かしながら、持続的なまちづくりを進める上での5つの基本方針を定め、それらを具体的に実現するための36のプロジェクトを位置づけました。

市駅まちづくり実現構想 プロジェクト一覧 ※各方針に対応させて整理していますが、実際には複数の方針に関わるものもあります。

基本方針	プロジェクト名	プロジェクト概要	対象地	実現主体
1 シンボル軸を活かす	1-1. 市駅前トランジットモール	市駅前通りの一部をトランジットモール(公共交通と歩行者を優先した商業街路)として整備し、人と環境にやさしいまちづくりを街路モデルを市駅前に生み出す。	市駅前通り	行政+民間
	1-2. 市駅グリーンプロムナード	市駅前通りの歩行者空間を拡張し、くすのき並木を活かした散策路(プロムナード)とともに、芝生や植栽により、緑あふれる広場を設け、地域の人々や来訪者が憩える空間を創出する。	市駅前通り	行政+民間
	1-3. くすのきマルシェ	市駅グリーンプロムナードを活かし、週末に和歌山の旬の食材を販売するマルシェイベントを開催。市駅前通りに人々の賑わいを生み出す。	市駅前通り	民間
	1-4. 市駅にぎわいステージ	市駅前広場や市駅グリーンプロムナードの芝生広場を、音楽などの文化活動の発表の場として開放。手軽な利用料金で場所と音響機材の貸出しを行い、市駅前に文化と交流を育む。	市駅前通り	行政+民間
	1-5. 思い出の市電カフェ	岡公園に保存されている路面電車を市駅前に移設し、車内をカフェとして活用する。市駅前の記憶を伝えるモニュメントを、市駅利用者や住民の待ち合わせ場所、休憩場所として定着させる。	市駅前広場	行政+民間
2 水辺を活かす	2-1. 市堀川城下町クルーズ	これまでの社会実験での運航実績を踏まえ、旧城下町エリアの交通・観光の足として、市堀川にてクルーズ船を定期運航し、水辺を観光・交流の動線として再生する。	市堀川	行政+民間
	2-2. 市堀川寄合テラス	市の旧寄合町分室をリノベーションし、和歌山県産の食材を使用した食事を提供するレストランやゲストハウスを併設することで、新たに水辺の観光スポットを創出する。	市堀川	行政+民間
	2-3. 寄合レストランクルーズ	寄合テラスのレストランと提携し、食事が楽しめるクルーズ船を運航する。通常営業の他に、貸切運航も実施し、ランチやディナー、カフェタイムに利用できる。	市堀川	民間
	2-4. つながる市堀川遊歩道	既存の遊歩道を延長し、寄合橋から世界一統付近までつなげる。桜並木や歴史ある橋の魅力を引き出す親水空間を一体的に整備することで水辺の回遊性を高める。	世界一統前～寄合橋	行政+住民
	2-5. 湊紺屋であい橋	市駅前通り近くの市堀川(杉ノ馬場・元博労町と湊紺屋町の間)に歩行者専用橋を整備する。世界一統前の桜並木や遊歩道、寄合橋とあわせて水辺の回遊ルートを生む。	市堀川	行政+民間
	2-6. 川みせ計画	市堀川沿いの建物の改修・建て替えの際に、建物から川への視線を生む空間づくりを行う。川側にはテラスを設け、花を植えるなど、景観を整えながら川を楽しむライフスタイルを育む。	市堀川	行政+住民
	2-7. 内川クリーンアクション	川沿いの遊歩道や水面の清掃に加え、水質や廃棄物の現状を把握する調査イベントを定期的に行うことにより、内川の環境改善に対する市民意識を高める。	市堀川	行政+市民
	2-8. SUP・カヌー体験	広々とした紀ノ川の水上で、SUPやカヌーの体験を定期的に行い、紀ノ川沿いの活性化と魅力再発見を促すと共に、水辺のアクティビティの場として定着させる。	紀ノ川	民間
	2-9. 紀ノ川芋煮会	紀ノ川河川敷にて秋の芋煮会を実施し、地域の恒例行事として定着させる。秋晴れの紀ノ川の風景を楽しみながら、地域コミュニティの交流と活性化を促す。	紀ノ川	民間(市民)
	2-10. フォトジェニック紀ノ川	市駅北側の紀ノ川にて、市民向けの撮影会や写真コンテストを実施し、水辺の季節ごとの表情や、夕日、工場夜景、橋など、紀ノ川の持つ魅力的な風景をPRする。	紀ノ川	民間+大学
	2-11. 河西橋メモリアルプレイス	近代化遺産としての河西橋(旧加太線橋梁)を部分保存・活用し、眺望デッキや水上テラスを有する広場を整備。紀ノ川沿いの新たな見どころと水辺の憩いの空間の創出を目指す。	紀ノ川	行政
3 エリアの特色をつくる	3-1. 雑賀孫市ミュージアム	孫市城を発展させ、雑賀孫市や雑賀衆に関する展示やグッズ販売に加え、甲冑づくり・着用とスタジオ撮影、火縄銃の実物体験等ができる体験型ミュージアムを開設。	孫市城	民間
	3-2. 熊楠メモリアルパーク	南方熊楠生誕碑のある一角を、歴史と緑を感じられる場として、熊楠にちなんだ木を植え整備する。あわせて世界一統の酒蔵の壁を活用した屋外ギャラリーを設け、酒蔵の歴史や熊楠の生涯を紹介する展示を行う。これらを案内板等で関連づけ、市堀川両岸の回遊を促す。	世界一統～熊楠生誕地碑	行政+民間+小中学校
	3-3. 和歌山「しゃるく」ツアー	雑賀孫市、紀州藩、徳川吉宗、陸奥宗光、南方熊楠、駿河屋等の歴史スポットやグルメを巡るマップやガイド付きまち歩きを企画し、隠れた和歌山の魅力を内外の人々に体験してもらう。	和歌山城 市堀川周辺	民間
	3-4. 市駅前紀州河岸	市民会館跡地に市内各港の水揚げ鮮魚や地元野菜等が並ぶ市場を設置し、和歌浦・雑賀崎や京橋等と結ぶクルーズ船の船着場を併設することで、地域の人々や来訪者が楽しめる水辺の拠点を創出する。	市民会館跡地	行政+民間
	3-5. 市駅クリエイティブイースト	市駅東商店街の歩きやすいスケール感を活かし、店主のこだわりのあるセレクトショップやブックカフェなどを集積させ、日常を豊かにする創造的なライフスタイルを発信するエリアにする。	市駅東商店街	行政+民間
	3-6. 杉ノ馬場おとな横丁	裏通りや路地が入り組んだ杉ノ馬場地区の特徴を活かし、和歌山の食材や地酒などを楽しむ居酒屋やバーなどを誘致する。仕事帰りの大人たちが気軽に立ち寄りほろろできる飲屋街(横丁)にする。	杉ノ馬場 1丁目周辺	行政+民間



1-1. 市駅前トランジットモール



1-2. 市駅グリーンプロムナード



2-2. 市堀川寄合テラス



2-7. 内川クリーンアクション



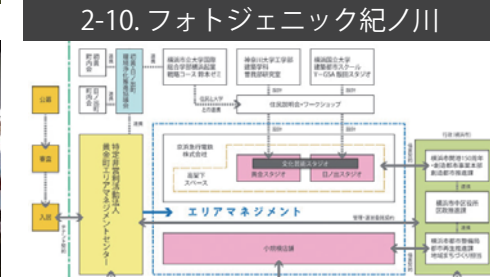
2-10. フォトジェニック紀ノ川



3-3. 和歌山「しゃるく」ツアー



3-5. 市駅クリエイティブイースト



4-1. 市駅エリアマネジメント



4-6. にぎわい青空コンテナ広場

▼市駅まちづくり実現構想 プロジェクト一覧(続き)

▲プロジェクトのイメージ(一部)

基本方針	プロジェクト名	プロジェクト概要	対象地	実現主体
4 コミュニティを育てる	4-1. 市駅エリアマネジメント	市駅まちづくり実行会議を、市駅周辺の公共空間(駅前広場、市駅前通り、市堀川など)の維持管理・活用を担いながら、行政や民間組織との調整を図るエリアマネジメント組織として発展させる。	市駅前エリア全体	民間+行政+大学
	4-2. まちぐるみミュージアム	市駅周辺のさまざまな魅力に触れることのできる体験プログラムを地域の店舗・企業・団体等で連携して提供する「まちぐるみミュージアム」の実施体制をつくる。	市駅周辺	民間
	4-3. まちカル教室	市駅前の芝生広場、空き店舗、農園などを活用し、まちなかカルチャー教室を実施する。青空ヨガ、ラジオ体操、踊り、音楽、絵、菜園、料理などのプログラムを毎週開催する。	市駅周辺	民間
	4-4. ふれあい市民農園	市民会館跡地において、野菜や果樹等を栽培する市民農園を開設する。育てた野菜は農園併設の食堂兼シェアキッチンや市駅前紀州河岸のBBQエリアで調理し、その場で味わえるようにする。	市民会館跡地	民間
	4-5. みんなのDIYガーデン	現市民会館向かいの緑地を活用し、地域住民による手づくりの庭へとつくり変える。花を育てるだけでなく、花壇やベンチ、道具などを手づくり(DIY)により整備し、地域で維持管理する。	現市民会館向かいの緑地	住民・市民+行政
	4-6. にぎわい青空コンテナ広場	有効利用されていない土地(駐車場等)に芝生広場と複数のコンテナを設置し、さまざまなコミュニティ活動の拠点とする。あくまで暫定利用であり、社会実験の場として、エリア再生の可能性を探る。	市駅東商店街	民間
	4-7. 若者×高齢者シェアハウス	和歌山市内の空き家・集合住宅・宿泊施設などをリノベーションして、高齢者と若者が共に生活する場を創出する。	市駅周辺の空き家など	民間+行政+大学
	4-8. コワーキングカフェ	新市駅ビルにコワーキングカフェを設置。個人事業主やサラリーマン等が自由に仕事や議論をすることができる空間とする。飲食物の提供も行い、まちなかでの新しい働き方を提案する。	和歌山市駅内	民間
	4-9. 鷺の森秋祭り	鷺森別院を会場に、毎年9月の秋の夜長を楽しむ「秋まつり」を開催する。春の孫市まつりや市駅夏祭りに対し、お月見やライトアップなど秋の風情をしっかりと味わう地元向けの祭りとする。	鷺森別院	住民・市民+小中学校
5 周辺地域とつながる	5-1. まちなかシェアサイクル	和歌山市内に、乗り捨て型の共有自転車の基地を設置するとともに、市内の自転車道や専用レーンの整備を実施。観光や買い物での自転車利用を促進する。	和歌山市内(中心部)	行政+民間
	5-2. まちなかループバス	現在の和歌山市内中心部のバス路線網を再編する形で、市駅を起点にまちなかを一周するバスを運行する。LRTにも接続する形で運行し、生活や観光の足として活用。	和歌山市内(中心部)	行政+民間
	5-3. まちなかLRT計画	市駅～和歌山駅間にLRT(次世代型路面電車システム)を導入し、現在の市駅・和歌山間のシャトルバスを置き換える。将来的には南海加太線や和歌山電鐵貴志川線への乗り入れも視野に入れる。	和歌山市内(中心部)	行政+民間
	5-4. 市駅みどりの回廊	市駅グリーンプロムナードから鷺森別院や和歌山城まで、並木や植栽による緑の歩行者空間を連続させ、歩いて楽しめる街路のネットワークを構築する。	市駅～鷺森別院～和歌山城	行政+住民
	5-5. 市駅南北自由通路	市駅ビルの2階から市駅北エリアにアクセスする歩行者橋(自由通路)を設置。市駅から紀ノ川方面への歩行者の動線を確保し、新たな人の流れを創出する。	和歌山市駅	行政+民間